

中間報告会にあたって

ハイライト：

- ・ 中間報告会は、次のようにすすめます。(次第)
- ・ 中間報告会をもとに、授業改善を(ねらい)
- ・ 新しい学習評価を意識して
- ・ 国語科、算数科における学習評価
- ・ 久原小学校のイノベーション

中間報告会は、次のように進めます。(次第)

【中間報告会】 8月24日(金) 9:00~11:30 於：軽運動室 司会(井上) 記録(田代) ○中間報告会意義：井上(5分) ○実践報告①：低学年(10分) 協議(10分) ※報告(豊原) ○実践報告②：中学年(10分) 協議(10分) ※報告(植田) ○実践報告③：高学年(10分) 協議(10分) ※報告(木原) ※休憩(10分) ○実践報告④：特別支援(10分) 協議(10分) ※報告(松原) ○全体総括：井上(5分) ○指導・助言 今富先生【国語】(15分) 野口指導主事【算数】(15分) 木庭先生【全体】(15分)
--

中間報告会は、左記のように進めていきます。

各部会が1学期の実践を報告し、その内容を全体で協議していくことで、チームでの運営の在り方と授業づくりについての成果と課題を明らかにしていきます。

また、実践報告を聞く中で、理解ができない点や曖昧な点(「聴き合い・語り合い」に関わること)があれば、質問や意見を出していただきたいと思います。

指導・助言者として、3人の先生方をお招きしていますので、この機会に、指導力向上にむけた助言をお受けすることができれば、この会が有意義なものとなります。

よりよいものを生み出していくために、一人一人が主体的に参加していきましょう。

中間報告会をもとに、研究発表会は授業改善を(ねらい)

「中間報告会」を行うねらいは、次の2つになります。

- ① 情報の共有による授業改善
- ② 自己実践の評価による授業改善

本年度の主題研究も、近接学年というチームで授業づくりを行っています。1学期は、公開授業と日常授業参観指導を通して、成果と課題が明らかになってきました。

授業整理会で協議された内容や講師の先生方からご指導いただいた内容には、久原小学校の国語と算数の授業づくりにおいて、価値ある内容がたくさんありました。そこで、「中間報告会」で、それぞれの成果と課題を発信し合い、共有し

ていくことで、研究発表会にむけた授業づくりに生かしていきましょう。

また、「中間報告会」で発信していく内容を検討していくことは、1学期に行った実践を自ら評価していくこととなります。自分の指導のよさと改善点を分析していくことは、研究発表会にむけての授業改善の方策がより明確にすることができます。

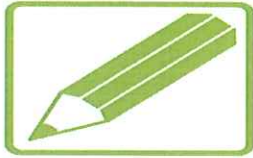
よりよい授業をつくり出し、子どもたちがわかる喜びを感じることができるように、1学期に学んだアイデアを出し合い、よさを取り入れていきましょう。

新しい学習評価を意識して

各チームからの報告で、共通した課題として挙げられているものが「評価規準の具体化」です。

今回の中間報告会での実践報告を新しい評価の観点から、考察していくことも必要なこととなります。

新しい観点は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つになりました。特に、「思考・判断・表現」は、各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とした表現に係わる活動と一体的に評価する観点として設定されました。「技能」は、従来の「技能・表現」の観定の「表現」との混同を避けるために改められています。



言語活動を中心とした表現に係わる活動は、久原小学校が進めている聴き合い・語り合い活動を中心とした授業づくりと重なるものです。

聴き合い・語り合い活動での子どもの姿を具体化していくことは、「思考・判断・表現」という観点で評価していくことにつながっていくのです。

研究を進めていく過程で、研究テーマが具現化されているかどうか評価していかなければなりません。その際に、評価の観点を明確にしておかなければ、的確な評価ができず、その後の改善にもつながっていきません。

指導の手だての工夫と併せて、的確な評価を行っていきましょう。

国語科・算数科における学習評価

国語科と算数科では、教科の特質から評価の方法が違います。

国語科の観点は、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解」の5つが位置付けられています。その中で「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」とを合わせて評価することになります。

具体的に「読む能力」では、読むための知識・技能が身につけていなければ読むことはできませんし、身につけた知識・技能を活用して、よりの確に読んでいくこととなります。

久原小学校の国語の授業づくりでは、読むための知識・技能を習得させ、その知識・技能を活用して、さらに読み進めていることとなります。

算数科の観点は、「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」となります。その中で、「数学的な考え方」を「思考・判断・表現」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」を「知識・技能」として評価していきます。

久原小学校の算数の授業づくりは、説明する活動を重視しているので、「思考・判断・表現」を高めています。

学習評価の
観点から、授
業を見直しま
しょう。

久原小学校のイノベーション

久原小学校の研究のキーワードとして、「イノベーション」を掲げています。研究推進の方法は、従来のものとは違い、イノベーション（技術革新）となり得るものです。しかし、個々の先生方にとっては、自分の中でのイノベーションが進んでいます。今までの自分から一歩でも進み、新しい指導を生み出した時、それはイノベーションとなります。

研究発表会にむけて、チーム力を発揮していくことで、さらに技術革新を進めていきましょう。

また、すべての子どもたちの目を輝かせていくために、「AKB大作戦」で掲げている自分も相手も尊重する表現（伝え愛）で溢れる真の聴き合い・語り合い活動を生み出していきたいでしょう。